



保護者ニーズ調査 親たちは学校に何を求めている！？

「つめ込み教育」の反省から、1996年の中央教育審議会の答申を受け、「ゆとり教育」という従来とは正反対の方向に進みつつある教育改革。昨年から施行された新学習指導要領では、学習内容が3割削減され、保護者の間に学力低下の不安が広がった。知識の詰め込みよりも体験を重視して、生きる力をつけようと導入された総合学習では、何を教えていいかわからないと学校現場の混乱を招き、保護者からは「そんなことよりも基礎学力をきっちり身につけて欲しい」との批判を浴びる結果となってしまった。公立校では学力は身につかない、と塾や私立中学受験を目指す保護者は増える一方。しかし、多くの保護者は、まだ公立校に期待しているし、公立校で子ども達を教育したいのである。

保護者たちが学校や教師に、本当に望んでいるのは何なのか、未就学児童～小学生の子どもを持つ母親200人にその胸のうちの聞いてみた。

< 回答者の基本情報 >

居住地

	合計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
全体	200	4	6	111	1	1	20	36	10	3	8
	100%	2%	3%	56%	1%	1%	10%	18%	5%	2%	4%

年齢層

	合計	20代	30代	40代
全体	200	5	149	46
	100%	3%	75%	23%

男女比

	合計	女性	男性
全体	200	200	0
	100%	100%	0%

子どもの年齢

	合計	未就学児	小学校1~3年	小学校4~6年
全体	200	5	149	46
	100%	3%	75%	23%

子どもの所属

	合計	私立幼稚園	国公立幼稚園	保育園	国公立校	私立校
全体	200	65	10	20	155	0
	100%	33%	5%	10%	78%	0%

< 質問項目 >

- Q1 あなたの理想とする小学校はどのようなものですか。
- Q2 あなたの理想とする教師像はどのようなものですか。
- Q3 あなたの理想とする校長(学校の責任者)像はどのようなものですか。
- Q4 学校の放課後や土曜日に、授業以外のサービスを求めるとしたらそれはどのようなものですか。
- Q5 私立校へ行かせたいと思いますか。
- Q5-1 私立校に行かせたい理由は何ですか。
- Q5-2 私立校に行かせたくない理由は何ですか。
- Q6 子どもたちの安全のために、学校にはどこまで対応して欲しいですか。
- Q7 学校の環境をよくするために何か協力するとしたら、どのくらい参加できますか。
- Q8 設備、教員、教育方針など、学校に関することで、「これはひどい」と思ったできごとをお書き下さい。
- Q9 その他、学校や教師に求めることをお書きください。**



Q9 その他、学校や教師に求めることをお書きください。

最後に、教師や学校に求めることを自由に答えていただいた。教師に関する要望が六割を占めた。日頃身近に接する存在だけに、その関心の高さがうかがえる。

教師に対して

教師に対しては、「まず子どものことを一番に考えて」「子ども一人ひとりをよく見て」という回答が多数を占めた。また、「熱意」「やる気」「教師としての自覚」といった言葉が目立ち、保護者たちにとって「教師は聖職」という意識は根強いという印象を受けた。

〈 子どもをよく見て！ 〉

まず、子どものことを考え、子どもの目線で物事を見て欲しいです。」

子どもに正面から向き合って欲しい。一番基本的なことだが、できていない気がする。」

各生徒を自分の子どものように大事に大切に、時には厳しく接して欲しい。」

とにかく、先生が忙しすぎです。先生にも少し時間的余裕を作らないと、子どもに目をむける時間がないと思います。もっと、一人ひとりを見てほしいです。」

「お山の大将」にならないでください。私たち親も子どもから教わるがたくさんあります。先生も子どもと、一人の人間として向き合ってほしいです。」

いろんな子がいてあたりまえ、それぞれのすばらしい個性なんだよ。というかたが教師自体が薄くなってきているとおもいます。子どもの目線で子どもと一緒に成長していくと、努力して欲しいです。」

なるべく子どもの立場に立ち、子どもが教師に対して心を開けるような教師と生徒の関係ができる教師がたくさんいるといいと思う。」

やはり児童の安全を第一に考えてくださり、子どもの立場になって考えていただけるとうれしいです。」

「一番はやはり楽しく通えること。そして担任がよき理解者であること。」

何をしたいかと多大な期待は持たない。理想はあるが、求めてもきりが無い。満たしてくれる技量のある先生も少ないのが現実。だから 安全に過ごさせて欲しい。子どもの心を傷つけないで欲しい。この二つだけ最低限守って欲しい。」

怪我や、子どもの間でトラブルがおきた時には、適切な対処をして欲しいと思います。」

教育方針などに縛られず、子ども個人の言葉に耳をかせるような先生たちでいてほしい。誰のための教育で、なんのための学校かを、よく認識してほしい。」

自分の営利のためだけでなく、生徒のために仕事をしてほしい。子ども好きな人に教師になってほしい。」



子どもをひいき目なく平等にあつかってほしい。」

学校は親のためにあるのではなく子どものためにあるのだから、常に子ども第一で考えて欲しいと思います。過保護にするのではなく、先生自身が信念を持って子どもと一緒に成長していただけたらと思います。」

「一人ひとりの個性を伸ばす教育は、今のように大勢の子どもを一人で見るとするには限界があると思うが、個性をつぶす教育の場にだけはしないで欲しいと思います。」

子どもの心を傷つけることをやったり 言ったりするのはやめて欲しい。また、友達関係もよく見ておいて欲しい。意外と子ども達は知恵がついていて、先生のいないところでひどいことをしていたりする。」

子どもの様子を良く見ていて、いじめなどを見落とさないで欲しいです。」

生徒をきちんと見ていることがわかると本当に嬉しくなります。それがなにより望むことです。」

先生は生徒を見捨てないで欲しいと思う。最初からしっかりしている生徒もいれば、しっかりしていない生徒もいると思う 全員を励まし、能力を伸ばしてあげて欲しい。」

〈 熱意のある先生を！ 〉

サラリーマンとしての対応でなく、生徒個人に対して心を砕いて把握して欲しいと思います。」

やる気のない方にはやめていただきたい。年金がつくまで我慢しているような方がいっぱいいらっしゃいます。」

基本的には、『お疲れ様です。』と言いたい。親同士の付き合いでさえ難しい今の時代に、親子両方と付き合った上、成績も上げなくてはならないのは大変な事だと思う。でも、『もうやっていけない』と感じたときには、教職から身を引く勇気も必要だと思う。情熱あつての職業なのではないかと思います。」

最近の先生はサラリーマン化していて、休みはしっかり 定時に帰宅・・・という人も多い。もう少し、熱心な先生がいてもいいのでは？」

子どもが育っていくのを一番近くで見っていく人だけに、公務員だからとか転勤で遠くに行かないとか、休暇制度が充実しているとかいうことで教師という職業を選ぶような人には、就かないで欲しいです。」

〈 良識のある人格者を！ 〉

個人的には、教員の社会勉強も大切だと思います。たとえば、研修で一定期間民間の企業等で仕事をしたり 学校や教育以外のことでの知識や経験も必要だと思います。」



「10年前、高校の教員採用試験について疑問に思ったことがあります。大学で単位さえそろえれば、教員免許がもらえること。そして、1次試験は筆記試験。勉強さえできればいいのでしょうか？2次の面接も多少は、コネがきくと聞きました。現在でも以上のようなシステムかどうか知りませんが、教員として向いた人格かどうかは二の次なのだと感じました。自分が教職の勉強をしていた時、この人が教師になるの？と疑問に思った人が、一発合格をした時は、教師に好かれる優等生タイプが受かりやすいのだからかと思いました。」

色々なタイプの教師がいてもいいと思いますが、教員はその子の人生を左右することさえある重要な存在だと思います。教員の採用は、慎重にお願いしたいものです。」

「いまだに“良い子”を求める先生がいるのにびっくりしています。まず自分が子どもはこうあるべきだとい型を作って一生懸命それにあわせようと子どもを無理やり叩く。高学年になると反抗もするけれど、低学年だとその先生の言いなりになり学校に疲れきることになる。そういう先生に限って父兄からの話を聞こうとしない！勉強面だけでなく先生にも子どもの心理講座や指導をもっと欲しい。」

「このごろ心無い教師の発言や行動に子どもが傷ついている事件が後をたたないですね。いろいろなことを求める前に、せめて人間的な、人格の高い教師を、採用の時点で間違いなく人選してほしいと思います。」

「もっと外の世界を知ったほうがいいと思う。どこか世間の風に当たっていない印象を受ける。」

「以前、千葉県で教職員を一般企業に研修に出した際、教員が最も苦痛だったのは、デパートでお客様に対して「有難うございました」と頭を下げることだったとTVでコメントしているのを見ましたが、他人に対して謙虚になれない教員がよい教育者であるはずがない。ましてやその程度のことが最も苦痛だとい教育界と一般社会との感覚のズレを突きつけられた思いがしました。教員の世間知らずは昔からですが、これからの多様化した社会に対応できる教育をするためには、やはり社会経験を豊かに積んだ人材の積極的な登用が望まれると思います。」

「学力だけで教員採用するのはもうやめましょう。最終的には、人間性で採用を決めてください。」

「教育者としてのモラルが問われる。カウンセリングや教育のやり直しが必要な先生が多すぎる。」

「人の心の動きに鈍感。マニュアル通りでないと、教師自身がパニックを起こしてしまう。教師のメンタルケアが必要。」

〈 しっかり指導して欲しい！ 〉

「あまり子どもの話に振り回されて、特定の子どもを責めたりせず、クラスをまとめられない先生を担任にしないでほしい。先生によってクラスに差がでるのはおかしいと思います。」

マニュアルやガイドブックにたよらず しっかりと人間を育てることを第一にしてほしい。」



もう少し子どもや保護者の気持ちを聞いてください。何でもかんでも、**「これは決定事項です。」**
と押し付けしないで！未成年者の凶悪事件が増えている中、小学校の6年間は子どもたちが人間として成長していく大切な時期です。勉強も大事ですが、それよりもっと大事な事があるのではないのでしょうか？先生方もご自分の小学校生活を振り返り、何が楽しかったか、考えてみて欲しいです。」

「もっと子どもをしかってもいいのでは。」参観日の日、騒ぐ子がいてもたしなめる程度で怒らないので、他の子が集中できなかった。親への教育も必要な世の中になっているなかもかもしれません。」

もっと自信を持って**「保護者に遠慮しないで」**やって欲しいです。」

体罰はいけなかもしれませんが、しかるときは厳しくしかるということは必要です。**「毅然とした態度で子どもに向き合ってください。」**親の言うことより教師の言うことを聞く小学校低学年時代教師の態度が影響を与えるのでやさしく厳しい先生であって欲しい。」

〈 しっかり勉強を教えて！ 〉

学ぶことのおもしろさを教えて欲しいです。」

教科書の枠にとらわれず、どんどん発展的な内容を盛り込んだ授業を行って欲しい。」

教科担任制をとり入れて、自信を持って指導してほしい。」

公立校の教師も塾や私立校で指導の仕方などを学んできて欲しい。」

授業時間が少なくなったのだから、1つ1つの時間を大切にして、きっちりと教えて欲しいです。1分1秒を大事にして欲しい。」

〈 質の高い先生を！ 〉

「一般社会の常識を知らない人が多いし、先生のレベルが落ちてきているので**「特に期待はしていない。」**親が家庭で子どもをしっかりサポートしていきたい。」

教師の質が落ちてきている。学力的にはもちろんだが、人格的な適性も、もっと考慮すべき。」

教師は、一度なったらずっと教師...というシステムを廃止し、**「きびしい更新制度にしてほしい。」**また、新卒だけでなく、社会経験のある人が先生になるシステムも導入してほしい。」

教師を毎年チェックし、**「レベルの低い者は担当から外してほしい。」**

豪華な設備や最新の機器よりも、**「質の高い愛情のある教師を望みます。」**

「先生も実社会体験をして欲しい。」先生のレベルチェックや、適正テストなどを定期的に行うべきだ。教員免許も、更新のためのチェックなどをすべきで、ある一定レベルに満たない教師は、担任を持つべきではない。定年間近の校長は、事なかれ主義に走りがちだ。」



同じ学年でもクラスによって授業の進み具合が違う という話を耳にします。次の学年に上がった時にはクラス替えなどがあるので、前の学年で遅れている子どもたちが授業についていけるのかと心配になった。同じ学年の先生同士で、授業の進捗状況など話し合って同じように進めてもらいたい。」

〈 保護者とも理解し合える先生を！ 〉

家庭と一体となって子どもを育てていくという気持ちで、児童、保護者に接して欲しい。また、保護者に媚びることなく奢ることなく体育で話しあってほしいと思っている。」

先生と保護者の信頼関係が子どもにも影響すると思うので、何かあったら保護者に連絡するか情報を共有できる場があればと思います。」

先生の考えをクラス通信などで知らせて欲しい。」

先生方には、子どもの目線に立った対応をしてほしいです。また、お忙しいとは思いますが、親とのコミュニケーションも忘れないで欲しい。幼稚園時代とは違い、学校の中での子どもの様子は見えにくいので、不安を感じる時が良くあります。そんな時、「どんな些細なことでも良いので言ってくださいね。」といったいただくと本当にほっとします。親が、相談しやすい雰囲気を作ってくださいとうれしいです。」

親を遠ざけようとする先生にはいい先生がいないような気がします。一緒に子どもを育てて行こうと考えていただける先生が一番のような気がします。どちらの責任とかではなくそれぞれの分担での育児ではないでしょうか。」

〈 教師としての自覚と責任感を持って！ 〉

学校の先生という一つの職業ではなく、教師である事を自覚して欲しいです。」

学校の先生はいちいち周りのことに気がつかっていないのは、神経がもたないのも分かりますが、もう少し周りの出来事をよく見てほしいと思います。いじめなどは、先生の目の前でやるものではなく、先生が見ていないところで横行しているものだと思います。あと、学校は自分の非を絶対認めてはいけなしいわれているのか、自分のミスは素直に認めないくらいがあると思います。教育者としても少し態度を改めてほしいと思います。」

思春期のデリケートな子どもに対しての、教育者としての配慮に欠けた教師が数人居るように思います。学校教師にとっては数百、数万人分の1 だが、親 子ども本人からすれば「1」であることを再確認してもらいたい。あたり前のことのようにだが、日々の生活におわれ対処し切れず、子どもが犠牲になってるケースがあるように思います。」

成長期の子どもが長い時間を過ごす大切な場であることを十分理解し、教師はその責任を十分意識してほしい。」



土日が休みになったことによる詰め込み授業、駆け足授業、乱開発による遊び場の不足、進学塾に通うことが当たり前のような教育体制、子どもの興味の方向や人間性を狂わせるようなテレビゲームの普及……今の世の中は狂いかけているように思います。子どもとは何か、教育とは何かを今一度見直し、軌道修正し、子どもたちをあるべき姿に戻していきたい。そのために、学校は勉強だけでなく人生を教わるどころ、先生は勉強の師とらより人生の師となって欲しいです。親も学校任せではなく、学校や教師を信頼して心を開くべきだと思っています。社会に出たときに必要なのは“学力より人間性”なのだということを、大人はしっかり認識し、子どもたちに間違いなく伝え、そのための道筋を教え整えていかなばならないと思います。これは教師とて同じ。学校では“師”でありながら、痴漢、盗撮、買春、自殺……これでは子どもたちは誰を信頼し、誰から学ばばいいのか解らなくなって路頭に迷いますし、深く傷つきます。教師という職業は、とてもステキでとても難しいと思いますので、教師の人間性も安定して保たれるよう、教師の心のケアもしっかり行えるような体制づくりも早急に必要だと思っています。」

学校の前に1台の自転車投棄を放置すれば、その数週間後にはもう一台、増えるもの。1つのゴミを放置すれば『ここには捨ててもいい』と誤解する人もいる。小さなことを、なおざりにしておくと悪化するということは、教育にも当てはまるはず。教師という立場に甘えず、もっと真摯に教育に取り組んで欲しい。」

学校経営陣(校長、教頭、他)及び教師は、もっと自分の置かれている社会的立場と役割を理解した上で行動して欲しい。密室で子ども相手の仕事だという意識はもう捨てる時代です。その上で、教師になったときの感動と喜びを思い出しながら、日々頑張っていて欲しい。子どもを預かっている!!という認識を持ってほしい。ただ勉強を教えているだけでは、その辺の塾の先生と一緒になので。」

先生も人間なので常に正しくとは思っていませんが、正義を示すことを忘れないで欲しいです。見て見ぬふりをするような先生には出会いたくありません。」

学校に対して

学校に対する要望としては、まずは「安心して通える学校を！」、そして保護者に対してもっと「情報開示」をして欲しい、という声が多かった。開かれた「しかも安全な」学校。この2つを両立するのは至難の技かも知れないが、これからの学校が目指すべき一つの方向を示していると言えるだろう。

〈安心して通える学校を!〉

信じられない事件が多いので、犠牲になった子どもたちのためにも、ことが起きる前にさまざまな面での対策をとってほしい。」

安心して子どもを預けられる場であってほしいです。教育の場であるということを忘れないでください。学力だけではなく、人生を踏み出すための大切な学びの場であってほしいです。」



いじめなどに積極的に取り組んで欲しい。」

学校で怪我をすることがないように切に希望する。」

楽しく安全に通ってくれる事が一番の親の望みだと思います。」

子どもがのびのびと過ごせる学校であってほしいです。」

子どもたちの精神的なカウンセリングなども充実させてほしい。」

日ごろからもっと、犯罪に対しての意識を持ってほしい。」

〈 子ども一人ひとりに目が届く体制を！〉

40人1クラスはあまりに生徒数が多すぎて大変です。子どもの数が減ってきているのだから、1教師に対し30人くらいまでが目の行き届く人数じゃないかと思うので、1学年のクラスと教師の数を増やして欲しい。」

「クラス人数が多いのは仕方がないので、できるだけ多くの教師の目で子どもたちを見てもらいたい。担任だけに任せることなく、教師の数を増やしてもらいたい。」

1クラス30人でも多いと思うが、とりあえず30人学級を作って欲しい。風邪をひいたりしてやむを得ず休んだ時、新しくなったものを、きちんと教えて欲しい。生徒がのびのびとしている学校にしてほしい。」

〈 もっと情報公開を！〉

学校でのトラブルは、隠さずに教えて欲しい。いったん決まった事は、教師全員に周知徹底しておいて欲しい。」

「とにかく、細かいことでも何かトラブルがあった場合、保護者に報告して欲しい。」

個人に対して学習、生活の状況を知らせてほしい。」

情報開示に積極的になってほしい。」

〈 本当のゆとりを！〉

我が子の学校は頑張ってくれていると思いますよ。でも、やはり「ゆとり教育」という名目で授業時間が削られた分先生も子ども達も忙しくてかえってゆとりをもって生活できないでいます。これは学校レベルで出来ることではありませんが、土曜日を休みにした分長期休みを削るなどして授業時間をしっかり確保して欲しいと思います。そうでないと授業で精一杯で、子ども達の“心”を育てることまで手が回らないと思います。」

「ゆとりとは誰のためのゆとりなのか。もっと授業中、学校の時間内で勉強させるべきだと思います。」



〈 人間形成をしっかりと！ 〉

保護者と学校が連携して子どもを育てていかななくてはならないと思っています。学校では先生がたにお任せしなくてはいけないので責任を持って教育してほしいです。勉強も大事ですが人間形成においてきちんとした子どもにそだってほしいです。」

学校は勉強するところかもしれないが、大人になった今思うのは、小学校というのは、友達を作る場であったと思う。なので、勉強する場だよと子どもたちに言いながらも、それよりも大切な人間関係を築いていくことをそれとなくサポートして行って欲しいと思う。」

教育だけにとらわれず、こころの問題にも、もっと時間かけてほしい。週休2日制になったことで全てのことに、しわ寄せが子どもたちにきていると強く思う。」

小学生のうちから塾にやったりする必要が生じないよう、学校でしっかりと勉強を教えて欲しいものです。学校の授業は“ゆとり”かもしれないが、高学年の子は殆ど塾に通わざるをえない状況だそうで、子どもは放課後や休日に“ゆとり”を失っているようだ。」

〈 学校の不可解なルールを何とかして！ 〉

プールに入るのにいちいち親の許可印が必要など、私たちの子ども時代にはなかった。そういう責任問題ばかり気にするようなところはあまり好きではありません。」

学用品など、全員お揃いにしなくてもよいと思う。運動会なども子どもに対して配慮しすぎる。足が遅いとかわいそうなどというのは気にしすぎ。」

〈 保護者への対応を改善して！ 〉

学校だけではなく、父母と密に連絡をとりあって相談できる学校が、今の時代必要かと思いません。」

保護者が学校へ行きやすい雰囲気をつくってほしい。」

〈 魅力的な学校を！ 〉

塾のほうが学校より楽しいという子どもがふえている。魅力的な学校づくりをしてほしい。」

保護者と児童と教師、それぞれの求める理想像が一致するような学校が作れたら...いいですね。」



行政への希望

財政難が、教師、生徒を直撃しています。もっとお金をかけずに楽しく伸びやかに勉強が出来るよう考えてもらい、時間を有効に使うことを教育委員会は考えるべきでは？ 財政はどの家庭も企業も厳しいのは同じです。そこをやりくりして将来のある子どもたちに教育をさせていく部署だと思っています。未来のある子どもたちにいろいろなことを経験させてほしいと思います。」

「公立学校であるならば設備面での不公平感をなくしてほしい。教師には教師としての誇りを持ってほしい。」

「今の学校に多くは望みません。教師も人間ですので、子どもとの相性もあるでしょう。もっと親が主体的に教育の内容を選択できるようなシステムができればよいと思います。習い事や家庭教師なら合わなければ別のところに行くこともできますが、今の学校のシステムでは（特に私立小学校のほとんどない地方では）学齢が来たら自動的に入学し、勝手にクラスが決められ、毎日通うことが当たり前のようになっています。そのルールに乗れない「要領の悪い」子どもは振り落とされてしまいます。学校教育は万能ではないはずですが、限界があるにもかかわらず、それを見ないふりをして学校がすべてのようなとらえかたばかりされることには疑問を感じます。」

「公立の学校では、学校間の格差、同じ学校でも先生によって受けられる教育に格差が大きいことがある。公立校でも一定レベルの教育が受けられるようにしてほしい。」

「新しい学校に手をかけるので既存の学校の修理に予算が廻らないから後回しにされるのはどうかと思う。」

親にも問題あり

「最近保護者会の役員をやっていると思うのは、保護者側（特に母親）のモラルに問題があるのではないかということ。役員会でも、保護者会でも、母親は他人の発言中に平気で隣の席の人間とおしゃべりをして笑っている。たった10数人の集まりでも、50人規模の集まりでも、隣の人と談笑している人は必ず数組いる。これでは子どもが授業中教師の話を聞いたり注目したりしなくても仕方ないかと思う。質問に対する意見とは違っていますが、学校や教師に文句を言う親に限ってこういう人が多いので、最近あきれていたところでした。」

「今の、子どもは先生や親、大人に見つからなければ、何をしても良いと考える子どもが増えていると思います。実際に小学校1年生の私の息子も仲良しの子に「殺してやろうか」と言われ、凄く傷ついていた時期があります。先生が見ていない所で言われたらしく、友達だと思っているから黙っていたという息子が非常に可哀想に思えました。私の場合は、先生には話さず、相手の子どもに直接話し、解決しましたが先生の見えていない所でそういう事を言ったりする子どもも少なくありません。学校も、もっと目を光らせて欲しいし、（外部に関しても）私達保護者も、うちの子に限って…」はなしで、子ども達の話をお身に聞いてやれると良いと思います。」



まとめ

本当に欲しいのは学力よりも安全？

保護者たちが学校に求めるものは何なのか。それは、決して特別なエリート教育でもなければ、最新の設備が整ったピカピカの校舎でもない。豊かな体験や基本的な生活習慣、基礎学力、そして、安全な学校を求めている、とわることが明らかになった。極論すれば、「安全で、子どもが楽しく通ってくれさえすればいい」というのが保護者の本音のようである。

これだけ「学力低下」が叫ばれ、「中学受験」への関心が高まっている中、「より高いレベルの学習」よりも「安全対策」へのニーズの方が高まっているというのは意外な気もする。これが1~2年前ならば、どうだっただろうか。多くの保護者が「学校の門をくぐりさえすれば子どもは安全」と思い、とりたてて「安全対策」を挙げることはなかったのではないだろうか。しかし今は、いじめ、学級崩壊、不審者の侵入など、たとえ学校内にいても必ずしも安全とはいきれない時代になっている。しかも、自由記入のコメントから見る限り、それらの事件が、遠いよその学校の話ではなく、いつ自分の子どもにふりかかってもおかしくないと多くの保護者は思っているのである。各学校やPTAでも何らかの対策を立てなければ、と危機感を募らせてはいるものの、明確な対策を立てられているところは皆無に近い。安全な学校でなければ、学力論争も虚しい。一過性のトレンドではなく、ぜひ、今後も学校の危機管理についての検討を続けて欲しいものだ。

教師の質がすべて

設備や教員、教育方針など、学校に関することで「これはひどい」と思ったできごとについて自由記入をいただいたところ、200名中144名が回答。実に7割以上の保護者が何らかの不満を持ちながらも、学校に通わせているのである。これらの保護者が「お金さえあれば」私立校に通わせたい、と思っても不思議ではない。

「ひどいと思ったできごと」の大半は教師に関する記述であった。マスコミでも「教師の質の低下」などと言われて久しい。教師が騒ぐ子ども達を制することができず「学級崩壊」に陥るといふ事態も起こり、大きな問題となっている。2000年には文部学省のから各教育委員会に向けて、指導力不足教員についての分限処分も含む人事管理システム策定の指示も出された。アンケートからも、明らかに指導力不足と思われる教員の存在が露わになっただけでなく、子どもを平気で傷つける言動、プライバシーや危機管理の意識の低さなど、人格的に問題があるのではないかと思われる教員の存在も明らかになった。保護者達は、教師に対して、「週5日制で、先生方も忙しそうで大変」と同情を寄せつつも、「何より子ども好き」で、「サラリーマン的ではなく」熱意があり「人間の尊敬できる」聖職としての教師を強く求めている。

学校選択制や、学力テストの公開など、斬新な教育政策で知られる品川区教育長の若月秀夫氏は、これらの改革の目的について「教育を変えるには教師を変える必要がある。そのためには、教師自身が



変わらざるをえない仕組みを作ること」と語っていたが(学びの場.com インタビュー 参照 <http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,2768,html?year=2003>) 子どもが日々接する教師だからこそ、その責任は大きい。教育改革がどういう方向に進もうと、大好きな先生がいれば学校は楽しいし、教え方の上手な先生がいれば、自ら学ぼうとい気にもなるのである。保護者にとっても、一番の関心事は、教師が「子も一人ひとりを見てくれているかどうか」。大所高所からの教育論よりも「質の高い教師に当たる確率」が、がもっとも大切なのかもしれない。

学校もサービス業であるという意識を

学校に対する要望で多かったのは「情報公開」。特に、何か事件があった場合、「どんな小さなことでも隠さず」に知らせたい、というのが保護者の願いである。学校の、「何でも隠そうとする体質」、「とても迅速とはいえない対応」に保護者たちは大きな不満を抱いている。企業でも、説明責任ということが強く要求されるようになっている。一連の不祥事が続いたときも、迅速に対応した企業、まずは隠蔽しようとした企業で、その後の明暗がはっきり分かれた。学校でも「保護者や児童はお客様」という意識が必要だと言われているが、「本当は、私立に行きたいのに仕方なく通われるのではなく「公立がいいから通う」と思ってもらえるだけの最低限の努力は必要ではないだろうか。